

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

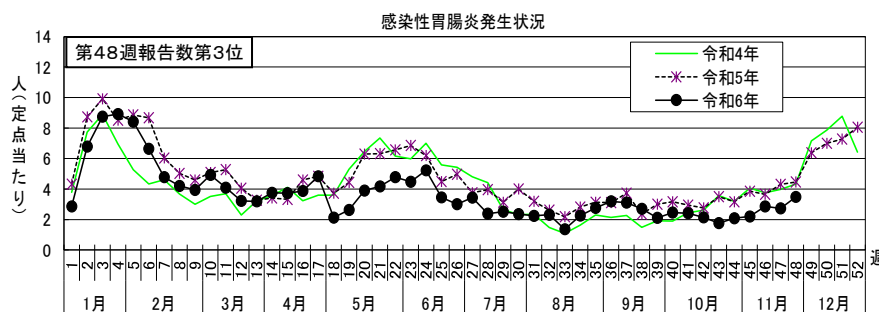
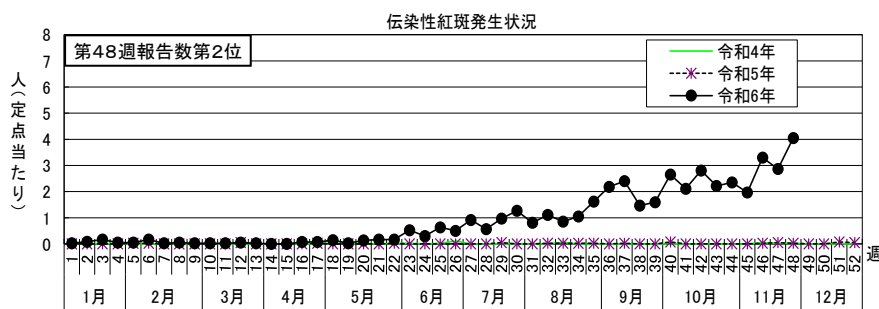
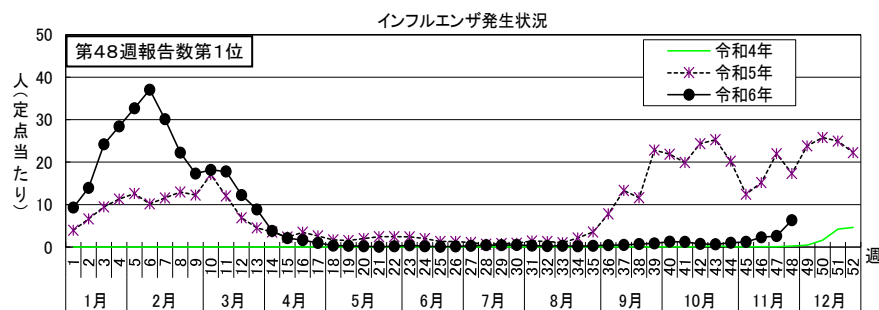
令和6年11月25日（月）～令和6年12月1日（日）〔令和6年第48週〕の感染症発生状況

第48週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）伝染性紅斑 3）感染性胃腸炎でした。

インフルエンザの定点当たり患者報告数は6.31人と前週（2.62人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は4.05人と前週（2.86人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.49人と前週（2.73人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

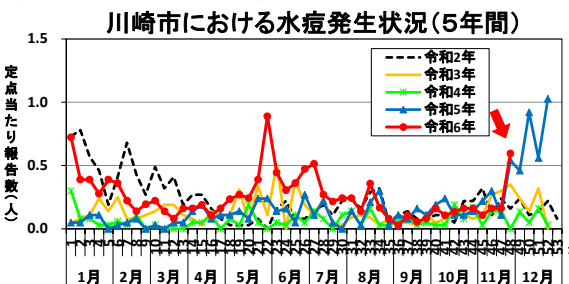


水痘（水ぼうそう）の報告数が急増しました！

水痘は、水痘帯状疱疹ウイルスに初めて感染した際に発症する感染症です。川崎市における水痘の定点当たり報告数は令和6年第48週（11月25日～12月1日）に0.59人となり、前週（0.16人）から大幅に増加しました。

水痘の予防にはワクチンが有効であり、平成26年10月から小児の水痘ワクチンが定期接種化されています。しかし、中学生の一部や高校生は定期接種化される前の世代であり、水痘に対する免疫が不十分な方もいらっしゃるため、学校等の集団施設での流行状況には注意が必要です。さらに、免疫がない成人が感染すると、肺炎等を合併し重症化しやすいといわれています。

水痘ワクチンの接種機会がなく、り患歴もない方は、任意接種も可能ですので、必要な場合は医療機関に相談しましょう。



水痘とは？

【病原体】

水痘帯状疱疹ウイルス（VZV）

【感染経路】

空気感染、飛沫感染、接触感染

【潜伏期間】

2週間程度（10～21日）

【症状】

発しん、38度前後の発熱、かゆみ等

※成人期の初感染は重症化しやすく、水痘肺炎等の合併症を併い入院が必要となることもあります。

【予防対策】

水痘ワクチンの接種

